

皆さん  
「消防筋肉に敬礼！」

私は小5から約50種類のアルバイトを経験、民間でトップセールスを達成後、消防学校体育教官として約9年間人材育成・危機管理等に携わった経験のある変わり者です。この度連載の縁をいただき、心から感謝申し上げます。

突然の質問ですが、公務員である消防は将来安泰で絶対倒産しない会社だと思っていますか？常に危機感を抱いている人は、目の前の事に対して本気(マジ)で考え、本気(マジ)で行動します。

消防職員一人ひとりが会社の社長であるという経営意識を持ち、今やらねば未来はない、私がやらねば誰がやる」という共通した危機感と使命感と当事者意識を持ちながら定年まで全力で任務を全うし、定年後も地域防災に貢献しながら、「災強消防人」であることを生涯誇りに思い続けたいものです。

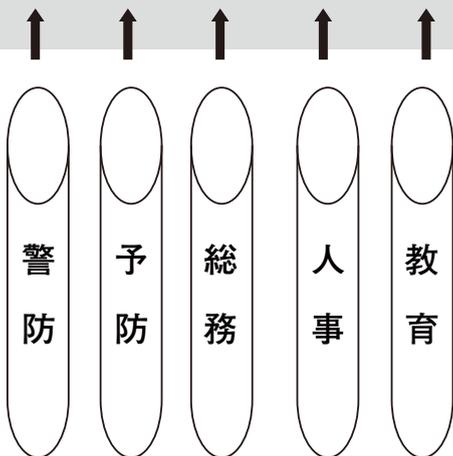
そこで、第1弾の取り組みとして是非とも提案したいのが、月1回程度の自主的な「主任会議」。これは、局や本部や現場などに勤務する職員で責任職手前の司令補の階級が理想的です。連携するための仕組み(きっかけ)を作り続ける柔軟な発想は横のネットワークから生まれることが多いのです。「よい」と思ったこととお互いに手を取り合って切磋琢磨する。そのためには異なる所属同士の活発なマーケティングの場として、「自主的な主任会議」が今、本気(マジ)に必要なのです。

もちろん手間がかかる事前の議

新連載 カリスマ教官・鎌田の  
今すぐできる  
災強人材育成計画  
(通称:本気プラン=マジプラ)

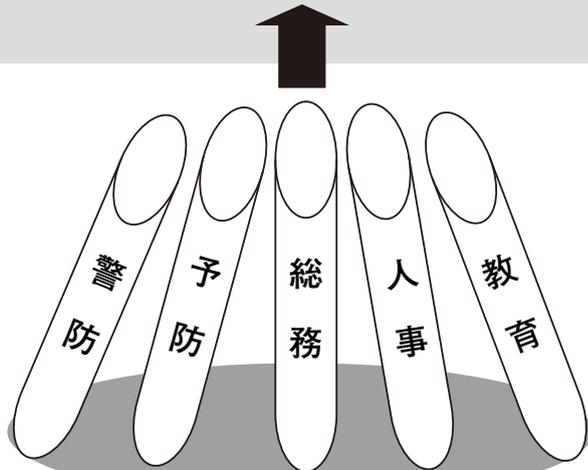
第1回 主任会議のススメ

題調整や配布資料は必要ありません。お互いの部署の情報を共有し、組織全体のリアルな動向を把握した上で自らの仕事を客観的に捉え、最善の結果を出すために行動に移す習慣を作るのです。これを継続することで、現場の声を施策に反映することもできたり、内容に応じて所属の垣根を超えた戦略的なチームができたり、責任職になる前に柔軟で経営的な思考を持つことができるのです。



いつまでも縦社会の構図は変わらない

「これではダメ」



意識のベクトルが寄り添い、このように変わっていきます

「こうしましょう！」



鎌田 修広

◎かまたのぶひろ  
全国の消防学校、消防大学の講師として活躍中。カリスマ(刈り上げ&スマイル)がトレードマークの熱い理論派。株式会社タフ・ジャパン代表。著書に「消防筋肉」(イカロス出版) info@tough-japan.com

先日、家族でデイスニーランドに行きました。最高のおもてなしで有名なこのスタッフは、常にパーク全体を把握した上で「今自分には何ができるか」を考えて行動しています。案内人・清掃担当・フロント等、誰にどんな質問をしても「わかりません」とは誰も言わず、総合的に判断して最善の答えを用意してくれました。このようなサービスを越えたおもてなし(ホスピタリティ)意識のきっかけを作るのが自主的な「主任会議」なのです。  
予算はかかりません。頭の中の「消防筋肉」を柔軟に使う、小さな意識改革を行いませんか。